Panasonic

パナソニック ホームズ株式会社
〒560-8543 大阪府豊中市新千里西町1丁目1番4号

2024 年 10 月 24 日

約 4,000 件のビッグデータ解析や長年の暮らし研究などから、収納や回遊動線の提案を強化

時代の変化にフィットした『暮らしやすい間取り提案』を展開

パナソニック ホームズ株式会社は、このたび、暮らしやすい間取りの三大要素である「収納・家事・可変性」※1 を基軸に、時代に合わせて変化するライフスタイルを丁寧に捉えた『暮らしやすい間取り提案』を、10 月 24 日から、戸建住宅に展開いたします。

満足度に重要なリビング・ダイニングまわりの収納

当社は、オーナー様の満足度向上に向けた間取り提案の充実を図るため、10 年前（2014 年）と現在（2024 年）におけるオーナー様邸の間取り図面 400 件の比較分析※2 や、約 4,000 件にのぼるオーナー様邸の「間取り」と「収納の満足度」について調査※3を実施し、回遊動線と収納におけるニーズを把握しました。

約 4,000 件にのぼる図面ビッグデータの分析にあたっては、大量のデータを精度高く解析できる Google 社の Google Cloud ※4を活用。これにより、リビング・ダイニングまわりの収納を分散配置する方が、満足度が高まる傾向を確認しました。

さらに、過去の図面比較を行った結果、共働き世帯が半数以上になり、時間の効率化を求める今の暮らしでは、家事を効率化する回遊動線のニーズが高いことを導き出しました。

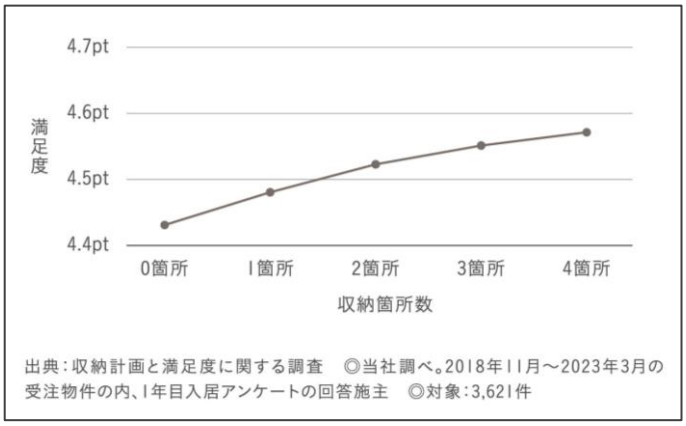
当社は、長年研究してきた家事楽®※5 の“家事をラクに暮らしをもっと楽しくする”思想のもと、時代と共に変化するライフスタイルに伴う、住まいと暮らしのニーズを継続的に捉えてきました。今回、新たな調査によるエビデンスも加え、更に暮らしやすさの提供価値を高め、顧客満足度向上を目指します。また、今回の提案に留まらず、今後も暮らしやすい間取りの探究や技術的品質の向上にも取り組み、高い資産価値が持続する住まいの提供を図っていきます。

●お問合せ先　パナソニック ホームズ株式会社 宣伝・広報部　広報課
担当：井筒・古矢・小林・澗隨（かんずい）／TEL：06-6834-1955

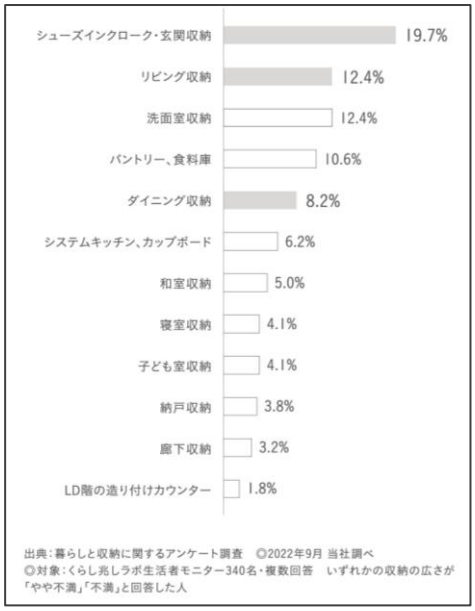
◆『暮らしやすい間取り提案』の概要

① リビング・ダイニングまわりに分散配置する収納

Google Cloud を活用したオーナー様約 4,000 件の「図面解析」と「収納の満足度」の調査から、リビング・ダイニング（LD）では収納箇所が多いほど、収納に対する満足度が高まる傾向を確認しました（グラフ①）。
また、過去の継続的な暮らし研究から、リビング・ダイニング・キッチン（LDK）や他の居室、玄関などを狭くしてでも確保したい収納として、シューズインクローク（玄関収納）、リビング収納が上位 2 つであることが判明しました（グラフ②）。これらの結果から、『暮らしやすい間取り提案』では、リビング・ダイニングまわりに、動線に沿って収納を分散配置し、玄関にはシューズインクロークを配置するなど、生活動線に合わせた適材適所の収納計画がポイントであると分かりました。



グラフ① LD まわりの収納個所数と満足度の関係



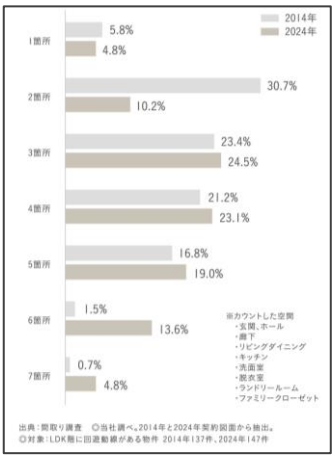
グラフ② LDK や個室などを狭くしても広くしたい収納

② 現代のライフスタイルにフィットする回遊動線

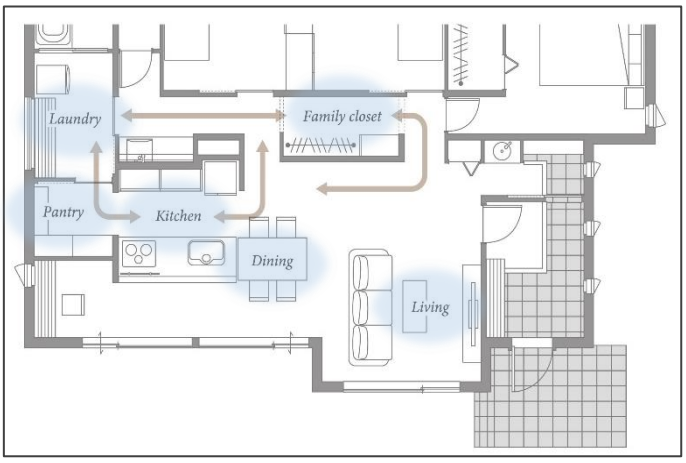
回遊動線とは、家の中に行き止まりがなく、ぐるりと回って移動できるように設計された動線のこと。2024 年の間取りには 2014 年（10 年前）と比べて回遊動線からアクセスできる空間の数が増加し、家全体をスムーズに回れる間取りが多く採用されていました。この結果から、『暮らしやすい間取り提案』では、複数の空間を回遊できて、家族が同時に行動しても動線の重なりが少なくスムーズに動きやすい間取りで、家事効率化を図ることが重要だと分かりました（図4）。

- **家の中全体をスムーズに動きやすい回遊動線**

回遊動線の採用率は 2014 年の 68.5%から 2024 年は 73.5%と微増している一方で、回遊動線に含まれる空間数は、2014 年は 2 ヶ所が最多（30.7%）だったのに比べ、2024 年は 3 ヵ所以上が最も多く（24.5%）、6・7 ヶ所も計 18.4%と比率が増加しています（グラフ③）。この結果から、『暮らしやすい間取り提案』では、より多くの空間を含む回遊動線の設計が重要であることが分かりました。



グラフ③ 回遊動線からアクセスできる空間の数

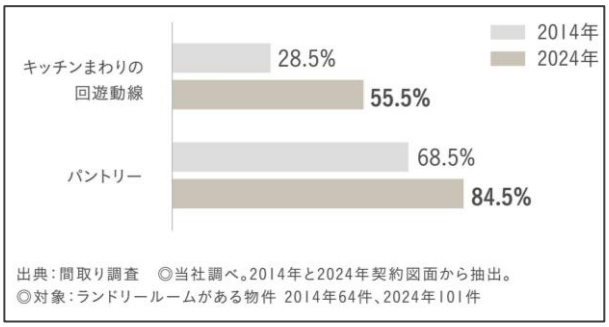


図④ 回遊動線と、その動線からアクセスできる空間が多い間取り例

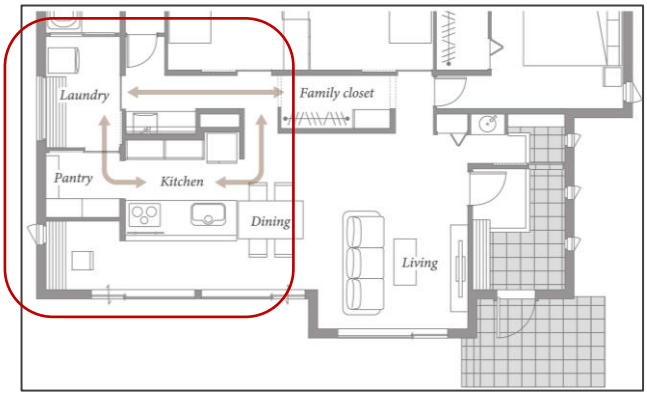
- **調理や片付けがしやすい回遊動線**

キッチンまわりの回遊動線やパントリーの採用率は、2014 年の 28.5%に比べ、2024 年は 55.5%と大幅に増加しています（グラフ⑤）。10 年前のプランは、キッチンで行き止まりとなる間取りや動線も一方向で考えられているものが多く、複数人でキッチンに立つことも難しかった状況が伺えます。一方、近年では家族全員で料理や配膳をするような時代に変わりつつあるため、キッチン周りが回遊できる間取りやキッチンの採用率が高まっていると考えられます。

この結果から、『暮らしやすい間取り提案』では、家族全員が同時にキッチンで作業や片付けをしやすい回遊動線を採用し、動線が重なる場合も裏動線を確保する等の工夫がポイントであることが分かりました（資料⑥）。



グラフ⑤ キッチンまわりの回遊動線やパントリーの採用率



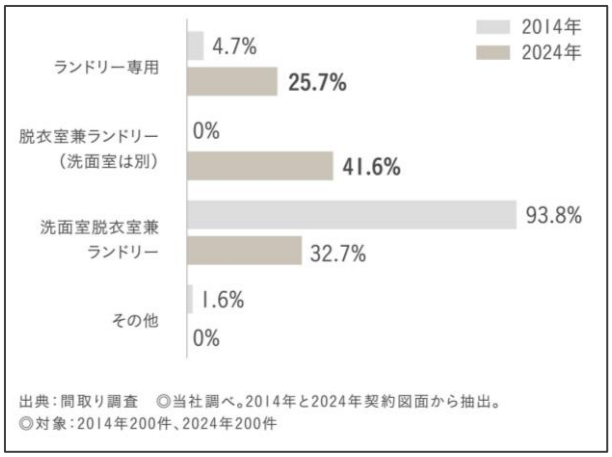
資料⑥ キッチン周りの回遊動線 間取り例

- **洗濯を効率化する空間・動線提案**

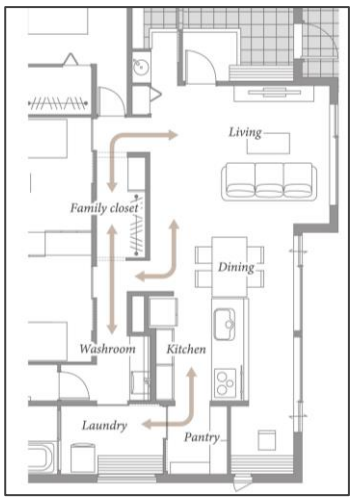
ランドリールームの採用率は、2014 年の 31.5%に比べ、2024 年は 50.5%まで増加しています。一方で、ランドリールームと洗面室・脱衣室を兼ねた空間の採用率は、2014 年の 93.8%から 2024 年には 32.7%まで大幅に減少しています。この傾向は、現在、共働き世帯が半数以上になり、洗濯をする時間帯が朝だけでなく帰宅後の夜に変化しつつあることや、花粉予防等による室内干しニーズの高まりが理由の一つとして考えられ、ランドリー専用ルーム、洗面室とは別空間である脱衣室兼ランドリールームの採用率の高さにも表れています（グラフ⑦）。

この結果から、『暮らしやすい間取り提案』では、洗う、干す、収納の手間を軽減し、一連の作業がスムーズに行える室内干しに適した空間やランドリールームから繋がるファミリークローゼットを採用し

た空間づくりのほか、限られた建物面積を有効活用するため、廊下に洗面台を設置するプランなど、空間と動線を兼用するような設計の工夫がポイントであると分かりました。



グラフ⑦ ランドリールームの種類



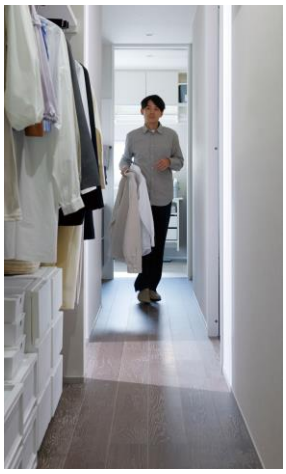
資料⑧ 洗濯を効率化する動線 間取り例

◆『暮らしやすい間取り提案』の例

家の中をスムーズに動きやすい
回遊動線

家族みんなで料理がしやすいキッチン動線

充実したシューズインクローク



洗濯の一連作業「洗う、干す、収納」を効率化する動線

廊下の動線と兼用して効率的に
設計した洗面室

※1：当社調べ。「2021 年住まいの暮らしやすさに関する調査概要」
調査対象：全国の 20 歳～69 歳の男女　サンプル数：1041 人。調査期間：2021 年 7 月 30 日（金）～8 月 2 日（月）
調査方法：Web アンケート調査

※2: 当社調べ。調査対象： 2014 年契約、2024 年契約のオーナー様の間取り図面　各 200 件、計 400 件。
抽出条件：戸建請負住宅、2 階建および平屋、延床面積 100～120 ㎡、夫婦と子どもの家族
※3: 当社調べ。2018 年 11 月～2023 年 3 月の受注物件の内、1 年目入居アンケートの回答施主、約 4,000 件。
※4: Google が提供しているクラウドコンピューティングサービス
※5:「家事楽」はパナソニック ホームズ（株）の登録商標。

◎時代と共に変化するライフスタイルを捉えた、「暮らしやすい間取り」提案の詳細はこちら
https://homes.panasonic.com/sumai/lifestyle/kajiraku/

◎プレスリリース『住まいの暮らしやすさに関する調査』を実施
https://homes.panasonic.com/company/news/release/2023/pdf/0713.pdf

＊ 本件に関するお問合わせ先 ＊
パナソニック ホームズ株式会社　宣伝・広報部　広報課　小林
携帯：070-7818-5779 ／ E-mail：kobayashi.moe@panasonic-homes.com
HP： https://homes.panasonic.com/company/news/release/